



---

# 京都大学持久走同好会かもかも 45周年記念文集

---



平成30年度 会長 山田脩人 ・ 副会長 愛知広樹 ・ 会計 高木博登 山脇歩夢

# 目次

- 挨拶
  - ・・・ 山田脩人 (2015年入学)
  
- OB寄稿
  - 夢を越え、明日に向かって
    - ・・・ 末次憲一郎 (1974年入学)
  - シルバー世代の持久走
    - ・・・ 野口仁志 (1976年入学)
  - 「持久する」ということ
    - ・・・ 野田隆史 (1980年入学)
  - 持久走と畏化蛇
    - ・・・ 池田建志 (1985年入学)
  - 60歳にして思う持久走と私
    - ・・・ 今野力 (1978年入学)
  - 「時空(とき)の旅人」Peak2Peakの人生を！
    - ・・・ 笹木美樹男 (1977年入学)
  - 「牛に引かれて善光寺参り」ならぬ…。
    - ・・・ 谷口勢津夫 (1977年入学)
  
- 現役生寄稿
  - 本サークルにおける現在のランニング事情
    - ・・・ 高木博登 (2017年入学)
  - いつまでも残って欲しいかもかもBOX
    - ・・・ 愛知広樹 (2016年入学)
  
- ひとつことコーナー
  - 笹木美樹男 (1977年入学)
  - 近藤実 (1990年入学)
  
- アルバム

## 挨拶

山田脩人 (2015 年度入学)

こんにちは。昨年度会長を務めさせていただきました山田脩人です。持久走同好会かもかもが 45 周年を迎えるということで、2019 年の 5 月に記念式典を開催させていただきました。正直、右も左も分からないままに開催に向けて準備を始め、気づけば当日を迎えていた気がします。末次様を始めとした OB・OG 会の方々や、現役会員の支えがなければ絶対に開催できていなかったと思います。本当にありがとうございました。

さて、その記念式典ですが、自分が予想していたよりもはるかに多くの方が参加してくださりました。また、今後の活動（45 周年記念駅伝や BOX の管理）の費用に充てるために募集した寄付も、当初の目標よりもかなり多くのご協力をさせていただきました。NF 企画の落選などが続き資金不足が囁かれていた中、非常に大きな助けとなりました。ありがとうございました。おかげさまで、45 周年記念駅伝（神戸～門司間山陽道駅伝）も無事開催することができました。当日の様子などを後日ホームページの方にアップロードする予定なので、ぜひ現役生の元気な姿を見ていただければと思います。

記念式典とは関係のない話にはなりますが、3 年連続で落選していた NF 企画に今年は当選したそうで、実に 4 年ぶりに NF にて女装喫茶シンデレラが出店されることとなります。最後に女装喫茶を経験したのが我々の代だったので、何とか経験を伝えられそうで良かったです。OB・OG の方々もお時間がございましたらぜひお越しください。

最後に、記念式典の開催に向けてご協力いただいた全ての方々に改めてお礼を言わせていただきたいと思います。ありがとうございました。次は 50 周年式典になると思いますが、その時には OB として皆様ともう一度お会いできることを楽しみにしております。

持久走同好会かもかも 第 44 代会長 山田脩人

0B 寄稿

## 夢を越え、明日に向かって

末次憲一郎（1974年入学）

神戸大学は山の斜面にキャンパスがあり、時計台のある本館まで駆け登るのは大変苦しいものです。しかし夕方頃に登りきって本館前から神戸港を眺めると、その景色の美しさには言葉を忘れてしまいます。一方広島大学は神戸大学と違ってキャンパスの勾配はそれほどきつくないのですが、広いキャンパスがやや斜面であり、ぐらりと一周回ると、帰りがかなりしんどくなるキャンパスでした。

神戸大と広島大学での教授時代はなかなか夕方走ることもできず、60歳半ばになってやっと時間的な余裕ができ、京大の学生のころに戻った生活をするようになるようになってきています。

京大、広大、神大を生活の場としてそれぞれ5年近く生活して、今さらながら感じることは、京都大学で1974年に創設した持久走同好会での思い出の多さです。

創設当時に小島君や故井上君らと鴨川べりを走ったことが昨日のここのように思い出しますし、11月祭の駅伝での出走、模擬店の出店、そして就職後も家族といっしょに式典に参加したことなどです。A号館にあったボックスから現在のテニスコート隣のボックスの獲得など思い出が尽きることがありません。1974年からこの45年を振り返ってみて、持久走に関係した思い出の多さを幸せに思えます。

このように、これまでの45年のことを振り返ってみると、持久走同好会はわたしにとって、もう一つ重要な意味があったように思えます。それは仕事のやり方、進め方を教えてくれたようにも感じます。

私は松下電器産業(株)に入社しましたが、入社してからこれまで誰もやったことがないことで成果をあげたいと思っていました。他の人に比べて倍以上の研究開発を行いました。なかなかいい開発ができませんでした。20世紀末の1990年代に社会から要望されたのが電気製品の製造に使われていた錫と鉛でできたはんだの無鉛化でした。1994年無鉛はんだの開発に着手し、1998年世界で初めてMDプレーヤーに搭載実用化することができました。世界で評価されるのと同時に、この製品は国内でも注目され、国立科学博物館に展示されるほどになっています（資料番号：113911640011）。

それからの仕事の進め方は持久走同好会のこれまでと同様なステップを踏んで行きました。10周年にあたる2008年には、京大の時計台ホールで世界の方々を招く国際会議を主催して開催し、20周年目にあたる昨年2018年には、次世代鉛フリーソルダーの研究開発成果を広大から発表し、これをエイテック社が取材して4000社にPR配信され、サーキュラーエコノミーと連動した大きな動きとなってきています。

これらのことを考えると、持久走同好会はわたしの心の中に根を下ろし、人生そのものに影響を与えてきたように見え、感謝の気持ちでいっぱいとなります。

そんな持久走同好会があと5年で50周年、半世紀の節目となります。現役の皆さま

んとOB・OGの皆さんともども、持久走同好会設立50周年の夢の扉を開けて、さらなる未来に連なる道へと一歩踏み出していきたいと思います。

最後に、持久走同好会創設45周年、まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

## シルバー世代の持久走

野口仁志 (1976年入学)

1976年工学部入学の野口仁志です。45周年おめでとうございます。現在61歳で、2年前に公務員を退職し社団法人で第二の人生を送っております。

休日は夕刻に、自宅（品川区 大井競馬場の近く）から運河沿いの遊歩道等を通って北上し、浜松町まで約8.4kmを約1時間かけて走り、帰りは通勤定期によりモノレールで浜松町から大井競馬場前まで戻っております。時間・体力に余裕があるときは、途中、レインボーブリッジ経由でお台場までの往復をコースに取り入れています。

ゆっくりと立ち止まらず走り続けることを目標に走っています。土日と連続で走ると信号等で止まるとついそのまま無意識に歩いているような状況です。足も上がらなくなり、目も視野が狭まり視力も衰え、1cmの段差でもつまづくことがよくあります。あと何年走れるのか判りませんが、車いす生活になっても走れるようにバリアフリーの経路も確認しつつ走っております。記憶力も衰えてきますので、帰路のモノレールでは、走ってきた経路を確認しつつ、将来コースを忘れて徘徊して保護されることがないように留意しております。

余裕もなく、記念祭には参加できませんが盛会をお祈りしております。

## 「持久」するということ

野田隆史（1980年入学）

1981年に初めてフルマラソンを完走して以来、38年間で42回のフルマラソンを完走してきました。学生時代はSUB3を目指してひたすら練習し、初マラソンから4年後に目標を達成することができました。その頃は競技として走っていましたから、いかにタイムを縮めるか、ということばかり考えていました。持久走同好会に所属することで、幸い走る仲間にも恵まれ、切磋琢磨し合いながら、充実した時間を共有できたことは、私にとってかけがえのない財産になっています。

就職した頃は、バブル絶頂期で帰宅は毎日深夜、休日も出勤することが多く、練習する時間がほとんどとれなくなって、フルマラソンからはしばらく遠ざかっていました。バブル崩壊後、5年ぶりに走ったフルマラソンで体力の激しい衰えを痛感した私は、とにかくゆっくりでもいいから自分のペースで走り続けることで、フルマラソンを完「走」できる体力と精神力を維持したい、と考えるようになりました。

その後ほぼ毎年フルマラソンに出場し、細々と走り続けてきましたが、2013の年末に右足首を複雑骨折するという事故に遭いました。スクリュービスとワイヤーでバラバラになった間接の骨をつなぎ合わせる手術をし、担当医からは「マラソンは無理かもしれない」との宣告を受けました。しかし私は何とかもう一度フルマラソンを完走できるようになりたいとの思いで、1年10か月にわたりリハビリと自主トレを地道に続け、2015年の11月にやっと最後まで歩かずに42.195kmを完走できるようになりました。タイムは自己ベストの倍近くかかりましたが、その時の感動はSUB3の時に勝るとも劣らないものがありました。

最近、私は遅い人の方が実は持久走をよりよく実践しているのではないかと考えるようになりました。フルマラソンを3時間で走る人と5時間で走る人を比べると、後者は2時間も長い時間、苦しみに耐えているわけです。より長い時間継続して走り続けることこそ、「持久」するということであり、持久走の神髄と言えるのではないでしょうか。



## 持久走と畏化蛇

池田建志 (1985年入学)

京大持久走同好会のよいところは、陸上部経験者でなくても、もっと言えば運動部経験者でなくても、暖かく受け入れて頂けることだと思っています。

瞬間的に運動部に在籍しただけの実質運動部未経験者であった私は、体力を付けるには最適だと思って持久走同好会に入りました。入会してからはそこそこ走っていたかと思いますが、筋肉が少ないのが悩みであったので、タイムトライアルのタイムよりも、腹筋と背筋を主とした筋力トレーニングを優先していました。その結果、身体が蛇になったのです。そこで、畏化蛇と名乗ることにしたのです。

そんなことはどうでもよくて、遅くても走り続けていると、思ってもみなかった結果が出たものです。

私が在籍していた当時、一瞬ですが、歴代男子ランキング100以内に入りました。タイムは、確か、21分59秒だったような。

3回生の終わり頃、当初は膝の痛みで篠山マラソンを回避したのですが、その後、膝の痛みが治まったので篠山と同日の明日香ひな祭り古代マラソンのフルマラソンの部に参加しました(昭和63年3月)。なんと、一般の市民マラソンで女子のトップに勝ってしまいました。タイムは3時間19分46秒で、女子のトップは3時間21分台。ゴールしてから知りました。明日香は、篠山の裏番組で、坂も多いためだったためでしょう。

そんなことは本当にどうでもよいのですが、私の記憶があやふやになる前に持久走の歴史の中で伝えておきたいことがあるので、今回、記念イベントと記念誌原稿に申し込みました。それは、現在、持久走女子ランキング6位の島川育子先輩のことです。40周年の時に誰かが伝えているかもしれませんが、島川先輩は平成23年(2011年)6月10日に天国に召されました。時間が経っているので、細かい経過を忘れかけていたのですが、手紙の控えがあったので、少しばかり記憶が戻ってきました。

島川先輩は、私の2年先輩ですが、大学院に進学されたので、私の大学4年間ずっと一緒に持久走同好会に在籍していました。私は、上述の通り男子の中で鈍足を貫いていましたが、そのために島川先輩と一緒に走る機会が多かったのです。

印象に残ることを一つ。島川先輩は、研究のため睡眠不足の状態でも長居マラソンに参加されました。タイムはともかく(6時間位だったような)、15周完走されました。その後は、階段を反対向きにしか降りることができない状態でした。それでもフルの距離を完走されたのは、島川先輩がとにかく走るのが好きで、持久走同好会が好きであったためなのだと、思っております。

その後、時代は平成となり、私は愛知県に住み、しばらく経ってから東海在住のOBを中心にしている「鍋田トライアル」に参加するようになりました。持久走同好会を離れてから22年余り経ったゴールデンウィーク前、私は、転倒により背骨を圧迫骨折しました。下記の通り何でもないような場所で転倒するというドジな話ですが、天国に行かなくて良かったのかも。

その治療の途中に、驚くべき知らせを岡田君から聞きました。島川先輩ががんで京都府立医科大学附属病院に入院しているとのことでした。すぐにでも見舞いに行きたかったのですが、コルセットを着けた状態で名古屋から京都まで行くのは身体に負担が大きいのので、後日見舞いに行くことを考えて、病院宛に手紙を書くことにしました。どのような連絡手段を使うことができるのか分からないので、畏化蛇宛の住所、携帯電話番号、携帯メールアドレスも書いておきました。なお、添付の写真は、同封した写真であり、一番左が畏化蛇で、その右隣が島川先輩です。

(送った手紙の文字部分のみ)

島川育子様

突然の手紙をお許し下さい。

先日、2月から入院されていることを岡田から聞き、大変驚いております。

直ぐにお見舞いに行くことができればよいのですが、後で説明するように私自身まだ無理をできない状態なので、とりいそぎ手紙を書きました。

治療は大変かと存じますが、島川さんは、学生のとくに（時に私と一緒に）からだを鍛えていたので、早期に回復されることと思います。一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

岡田や森田達とは、新年の「鍋田トライアル」（愛知県の鍋田干拓で行うことにした約3 kmのタイムトライアル）で毎年ではないのですが会っています。走り込みができていないので、毎回、途中で失速し、岡田達から大幅に遅れてしまうのですが。

私は、特許事務所に勤務しており、弁理士の資格も持っています。毎年、1～3月に仕事が集中し、休日返上の状態になってしまいます。今年は、あふれた仕事が4月に持ち越され、4月も仕事に追われた生活をしておりました。

そんなゴールデンウィーク前のある雨の日、自宅の外の階段で滑って転倒し、背中を階段に打ち付けてしまい、背骨（胸椎）を圧迫骨折してしまいました（全治3か月の診断）。入院はしておらず（ベッドが空いていなかった）、治療として、なるべく横になることと、起きているときにコルセットを着けることを繰り返しています。コルセットを着けた状態で健常人並に歩くことが可能です。少しずつ、仕事もしております。コルセットを着けて初めてわかったのは、コルセットでからだを後ろに反らした状態に固定されるため、今までに無い破格の肩こりと腰痛に悩まされることです。また、無理をすると後遺症が残る可能性があるということなので、時々横になりながら背骨に負担がかからないようにしています。

たまたま、実家から引き上げてきた写真の中に白浜合宿の写真があったので、スキャナで読んで印刷しました。おそらく、お手元と同じ写真があるようには思いますが、不鮮明なのはご容赦下さい。当たり前ですが、今の私は、こんなに若い姿ではありません。

回復されましたら、一度、一緒にジョギングをしましょう。ほとんど走っていないので、私の方がおいていかれるかも。一日も早いご回復を祈っております。

平成23年5月23日

(手紙終わり)

送った手紙の結果がどうなるかは全く考えていませんでしたが、すぐに、島川先輩から手書きの手紙が来たのです。丁寧に書かれていましたが、震えのある字でした。

(来た手紙をタイプ)

池田建志様

去年の六月に乳がんの手術をして、今年二月に肺に転移したことがわかり、胸水がたまってその対応に追われるうち、走るどころか歩くこともままならず、酸素ボンベをつけて生活しています。抗がん剤が効かず、もはや治療法がないので、追い出されるように、五月いっぱいぐらいを入院のメドにして自宅療養に切りかえます。

岡田君と森田君は、遠くから見舞いに来てくれました。他にも連絡しておくとの話だったので手紙をくれたんですね。

背骨の圧迫骨折も大変ですね。後遺症の残らないようにして下さい。

白浜合宿の写真なつかしかったですありがとうございます。

平成二十三年五月二十五日水曜日

島川育子

(手紙終わり)

おそらく、手紙を書くのにも時間がかかったことでしょうし、体力を使わせてしまったかもしれません。畏化蛇としては、表現しようがないのですが嬉しく思いましたし、島川先輩が畏化蛇からの手紙を喜んでいただのだと思っております。

その後、連絡を取って何とか会いに行行って島川先輩を元気づけたいと思っておりましたが、・・・。

6月11日、島川先輩の知り合いの方から携帯にメールが入りました。畏化蛇からの手紙にメールアドレスが書かれていたので、連絡したとのこと。昨日、島川先輩が天国に召されたとのことでした。手紙に書いておいたメールアドレスがこんなことに使われるとはつゆほども思っていませんでしたが、しばらく心を落ち着かせることが出来ませんでした。少し落ち着いてから、その知り合いの方に連絡を取って、京都までお通夜に伺いました。

(用意した手紙の内容)

島川育子様

このようなことで京都に来ることになるとは思ってもみませんでした。ご生前にお会いすることができなくて、本当に申し訳ありません。せめてもの救いは、三橋達がお見舞いに行ったときに、池田からの手紙を持っていたことです。

池田の4年間の在学中には、何度も一緒に走りに出かけました。本当にお世話になりま

した。よき思い出は、一生忘れません。

島川さんは、ランニングが好きなので、天国でもずっとランニングをされると思います。ぜひとも、ランニングを楽しんでください。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

平成23年6月11日

(手紙終わり)

症状は大変だったと思いますが、畏化蛇には、島川先輩が安らかに眠っているように見えました。現役の4年間に、島川先輩がいた持久走同好会の楽しい思い出が出来たことを心より感謝しております。

なお、圧迫骨折の後遺症は、特になく、せいぜい身長が5mm位短くなった程度です。代わりに、年齢のせいで、股関節痛と腰痛に悩んでいます。でも、走る喜びはまだ残されているので、幸せです。無謀にも、この原稿の投稿直後に大阪でフルマラソンに出ます。記念祭に無事出られることを祈っております。

長い乱文にて失礼致します。京大持久走同好会のさらなる発展を祈っております。

## 60歳にして思う持久走と私

今野力 (1978年入学)

60歳。京大持久走同好会で走っていた頃は全く考えられなかった年齢を今年の9月に私は迎えます。それでも今なお老骨に鞭打って(?)細々と走り続けています。すでに走歴40年を超え、このような人生を歩むことができたのはひとえに京大持久走同好会との出会いがあったお陰です。

私が京大持久走同好会に入ったのは同好会創設5年目で、45年も続くとは当時まったく思いもしませんでした。45周年をお祝いさせていただくとともに、現役世代、OB、OGの皆様への永年にわたるご尽力、ご努力に深く感謝いたします。在学当時の思い出については35周年の記念誌に書きましたので、今回は最近の話を書くことにします。

35周年の記念誌に書きましたが、私は就職してからも、マラソン好きの職場の人たちと持久走を続け、紆余曲折はありましたが今日まで何とか走り続けています。30代前半が絶頂期で、フルマラソンで2時間44分、富士登山競走で3時間17分まで自己ベストを更新しました。しかし、その後は、四十肩、五十肩、ぎっくり腰、腰痛、膝の怪我等に何度も泣き、年齢とともにタイムは落ちる一方で、59歳の現在、フルマラソンは3時間43分、富士登山競走は5合目関門失格になってしまうまで落ちてしまいました。

最近ではロードを走るとすぐ足にくるので、山を走るトレイルランを中心にやっています(富士登山競走もトレイルランと言えばトレイルランなのですが、ひたすら登りなので、登り下りのある普通のトレイルランとは区別しています)。トレイルランの練習と大会は茨城県内のみですが、茨城の山は、標高は低いものの、直登、直下りが多い非常に厳しいコースで、練習は地獄の苦しみ(^\_^;)です。トレイルランの大会は5年ほど前から参加している奥久慈トレイルレース50k(50kは50kmではなく50kmくらいという意味で、実際には59kmあり、毎回、死ぬ思いで走っています)をメインにしています。最初に奥久慈トレイルレース50kを走った時は46kmの第3関門の10時間30分の制限時間にひっかかり失格になってしまいました。これにショックを受け、トレイルランの練習を積み、その後は4年連続で完走しましたが、いつも関門時間との戦いです。タイムもゴールの関門時間14時間ギリギリで、最下位になったこともあります(奥久慈トレイルレース50kの完走率は50%前後です)。ゴール後もひどい状態で翌日の夕方まで死んで(?)いますが、55歳をすぎて14時間も動き続けることができるのも持久走同好会で鍛えられたおかげと思っています。

トレイルラン中心の走りをするようになり、最近では自分の走り方の「改善」ができるのではないかと感じ始めています。59歳のジジイの戯言と思われるかもしれませんが、落ちる一方の記録に歯止めをかけ、記録を戻せる気がしています。まだ成果はでていませんが、60歳台でもうひと花咲かせるべく精進しています。どこまでやれるか、5年後の持久走同好会50周年タイムトライアルでの私の快走に乞うご期待!?

## 「時空（とき）の旅人」 Peak2Peak の人生を！

笹木美樹男（1977 年入学）

私は 2014 年 10 月末に突然、大動脈解離という大病で入院し、死んでもおかしくない状態であった。それまでは、プライベートでは岐阜清流マラソンや国内外のスキー、スキューバダイビング、旅行など若者同様の生活であった。オフィシャルでも IT 方面の研究開発など国内外で精力的に行っており、「俺はこのまま大丈夫だ」とずっと思っていた。その年の 4 月にはカナダ Whistler-Blackcomb で最高のスキーを楽しみ、Peak2Peak のジャケットも手に入れた（これはのちにマラソン大会の必須アイテムとなる）。当時 56 歳とは言え、心身ともに絶好調であった。それが、研究所内で食堂に向かう途中で気を失い、気が付いたらぼおっと天井が見える。見知らぬ病院に寝たきりで、家族に会うことも家に帰ることもままならない。その時点で既に手術後であった。思えば、夢の中で何度か「おまえはまだこちらへ来てはいけない」「あなたはまだ死んじゃいけないの！」という声(?)を聴いた記憶がある。三途の川の一步手前であったのだろう。目が覚めたら重力 5 倍の世界である。まったく思うように動けない。以後 2 か月あまりリハビリ入院の生活が続く。退院後もその影響は大きく、旅行・スキー・ダイビングなどは再開できたが、持久力に関しては、2 年前までは 500m も走れない状態だった。だが、同期の小林滋弥さんに海外フルマラソン 3 時間台の話を Facebook を通じて伺い、60 歳近くでもここまでやれるんだと大変感銘を受けた。そして、1 年前から毎朝、2km、5km と朝のジョギングを重ね、2018 年にはマラソン大会で 10 km を 5 回、20 km を 2 回完走し、富士山フルマラソン（時間制限でハーフまで）にもチャレンジした。そして 2019 年 2 月 10 日には愛・地球博記念公園でのフルマラソンで生まれて初めて完走証をいただいた。今年はさらに 4 月の岐阜清流マラソンや秋の富士山マラソンで完走証を追加するつもりだ。

今日は 3 月 10 日、AM は名古屋ウィメンズマラソンが行われ、5 人の女子選手が新たに MGC 追加となった。午後には琵琶湖マラソンで男子が MGC をかけて争った。フルマラソンというのは 40 km よりもきつい。最後の 2.195 km がデッドヒートである。そして 40km は単なる 10 km の 4 倍ではなく、20 km の単なる 2 倍でもない。20 km 超えたあたりから別次元の自分との闘いになる。それをスマートに超えていく昨今の女子たちには感服せざるをえない。私のマラソンはずばり、自己満足である。おそらく一般の参加者は大半が自己満足であろう。しかし健康面は勿論のこと、自己管理・制御、感性や新しい発想など精神面・人生哲学においても、その効果は計り知れない。計算機科学のノーベル賞ともいわれる ACM Turing 賞で有名な、イギリスの数学者 Alan Turing (1912.6.23-1954.6.7) はマラソンをしながら、あの偉大なる Turing Machine (今のコンピュータの原理となる状態機械の概念) を発想したといわれる。私も生きていることの素晴らしさと景色との一体感

を感じながら空海のように突き進み、竜馬のように新しいことをやって、死ぬまで前のめりでいたいと思う。



(2018年10月、札幌・真駒内にて)

「牛に引かれて善光寺参り」ならぬ…。

谷口勢津夫（1977年入学）

「先生、京都マラソン、一緒に走りませんか」、こう、あるゼミ生から言われたのが一昨年の初秋の頃のこと。彼は、夏休み前の前期打上げのゼミコンの席でゼミ生から学生時代のことを訊かれて私が持久走同好会のことを話したのを覚えていて、京都マラソン2018のペア駅伝（1区27.6km、2区14.6km）に申し込んでいた。

彼は、「気だけは若い」私のことだから断るはずがないと踏んで1万円立て替えまでして申し込んでくれていたのだ。「退路」を断られた私としては彼の言葉に応じるしかなく、早速、自宅近くの桂川沿いを走り始めた。

しかし、40年近いブランクはやはり大きく、初めの頃は、桂川に到達する2kmほどを走るのがやっとのこと。少しずつ距離を伸ばし何とか7、8km休まずに走れるようになった年末の頃、左足の土踏まずを痛めてしまい、結局、練習不足のまま本番へ。

エントリーが決まった後に聞いたのだが、相方の彼はなんと「サブ3」ランナーで、当日も6位で襷をもらうことになった。ちなみに、3位はリオパラリンピック女子マラソン銀メダリストの道下美里さんで、その相方はなんとあの山中伸弥先生。

襷を受け取った私は山中先生を追いかけようとしたのだが、1kmも保たず敢え無くガクッとペースダウン。結局、左足の痛みも再発し、何とかゴールまで辿り着いたものの、相方の「貯金」を食い潰してしまった。

相方のゼミ生には全く申し訳ない結果だったが、帰りに鰻重と一緒に食べながら、私の方は完走できたことだけで「達成感」を味わっていた。そして、心の中で「また走ろう！」と意を強くしていた。

その後、夏休み頃まで左足の養生も兼ねて走るのを自重し、9月頃から練習を再開し、11月には大阪リバーサイド（ハーフ）マラソン、今年2月には高知龍馬マラソンをそれぞれ完走した。初フルマラソンで5時間23分（ネット：5時間13分）の結果に満足しつつ、「来年の課題は浦戸大橋の下りだ！」と来年は5時間を切ることを目標に最近ポチポチ走り始めたところである。

「学生に引かれて持久走」、持久走同好会OBの40年後の近況まで。

#### 【余話】

京都マラソン出走前3週間前から酒をやめて以来1年2か月ほど経った。持久走再開はこの意味でも「気分転換」になった。



# 現役生寄稿

## いつまでも残って欲しいかもかも BOX

愛知広樹 (2016年入学)

まずは、45周年記念誌の発行や45周年記念行事の実施に際して、山田脩人さん(2015年入学、前年度会長)、高木博登君(2017年入学)、山脇歩夢君(2017年入学)をはじめとする多くの方々が計画や実行をしてくださり、とてもありがたい気持ちでいっぱいです。

さて、文章を書くにあたって30周年記念誌を参考にしたところ、昔の情報がたくさん載っていて興味深かったので、僕も現在の情報を交えながら書きます。

持久走同好会かもかもが45年目という事実に対面すると、改めてその歴史の長さに驚かされます。僕が2016年入学なので、サークル4年目ですが、このたった4年の間でも周囲の様子はめまぐるしく変わっているように思われます。殊にBOX周辺のこと限定しても、4年の間に新しく生まれたもの(国際高等教育院、GPA制度、英語の課題GORILLA、市バスの京大快速、百万遍のサイゼリヤやセブンイレブンやケンタッキー、BOXから一番近いセブンイレブン、東一条のライフなど)、なくなったもの(なくなる可能性のあるもの)(立て看板、吉田寮、旧女子寮、共北ショップ、中華料理屋コウシン、焼肉屋栄華亭など)がこれだけたくさんあります。

このように常に変化する環境のなかで、45年サークルが続くことやBOXが24時間自由に使えることは当たり前ではないと感じます。2019年現在は、かもかものBOXは4共南側のプレハブにあります。しかしながら、最近の京都大学の立て看板の撤去や学祭の規則強化などの状況を考えると、24時間自由に使えるBOXという存在がいずれ無くなってしまいかもしれません。現在のかもかもにとってBOXは必要不可欠な存在です。24時間自由に使えるBOXがあるおかげで、学生時代しか経験できないモラトリアムを過ごせたと思います。たくさんの思い出があるかもかも、とりわけかもかものBOXが15年後、30年後と残ってくれて、未来の後輩がBOXのすばらしさを経験できることを望んでいます。

## 本サークルにおける現在のランニング事情

高木博登 (2017年入学)

この度は京都大学持久走同好会45周年おめでとうございます。

まず、45周年記念式典の開催と会誌発行に際して、特に前会長山田脩人さんとOBの末次憲一郎さんには多大な尽力を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。また、当日の式典では多くのOB・OGの方々に出席を賜るとともに、たくさんの寄付金も頂きました。OB・OGの方々と、このようなつながりがあってこそ、本サークルが45年の永きにわたって存続してきたのだということを身に染みて感じた次第です。

さて、ここから本稿の本題なのですが、私からは本サークルの現在のランニング事情についてお伝えします。

まず、永らく変わっていない点についてですが、毎月1回のタイム・トライアルは今でも健在であります。昨年度は参加人数が低迷気味で、存続さえも危ぶまれた(?)わけですが、今年度に入ってから再び活況を呈しています。また神戸大学マラソン同好会主催、12月の長居マラソンも毎年参加しています。非常に寒い時期にも関わらず、他のランニング系サークルに比べても多くサークル員が参加し、特に女子に関しては、ここ数年優秀な成績を取っています。

次にここ数年の動向について。書くべきことはいくつかあるのですが、最も特筆すべき点は、本サークルの超長距離化でしょうか。一体何を言っているのかと申しますと、ウルトラマラソン参加者が目に見えて増えたということです。昨年はいくつかのウルトラマラソンそれぞれに複数人が参加し、特に飛騨高山ウルトラマラソンにおいては、10人弱が参加したと記憶しています。参加者に上回生ばかりだったので、このウルトラマラソンブームは一過性のものかと思っていましたが、今年度に入って2回生がウルトラマラソンに参加しまして、これから恒常的なイベントになるのではと密かに楽しみにしております。

今年度に入ってから動向としては、定期練習の開催が挙げられます。少なくとも私が入学してからは、皆が各々の予定に合わせて各自練習していたのですが、ここ最近の水曜日の放課後に練習し、その後はピザを食べるというのが定番となっています。しかも練習場所はあの急峻な坂で有名な將軍塚でして、参加者の大腿四頭筋は毎週強靱になっています。

簡単ではありますが、以上が今現在の本サークルにおけるランニング事情であります。どのような形であれ、ランニングへの熱意は設立当時と変わっていないことが伝わったのではないのでしょうか。この先も本サークルがランニング愛好家の憩いの場であり続けることを願ってやみません。

ひとことコーナー

● **笹木美樹男 (1977年入学)**

小林滋弥さん FaceBook でお世話になってます。私がフルマラソン完走にこぎつけたのは貴殿の太陽のような明るさとパワーのおかげです。私は貴殿の3時間13分には一生辿り着けない。リタイアしない精神力とする勇気を自己制御して5時間台につなげたい。そして何よりも、マラソンに学ぶ教訓と、時空・景観との一体感！持久走同好会に入って本当に良かった。

● **近藤実 (1990年入学)**

私が2回生だった1992年秋のある日、BOXでくつろぎながら11月祭の出し物について数人で話していた。

今年は昨年までのディスコから変えてみようという話の流れになり、同級生の大道氏が突然「女装喫茶をやろう！」と提案。

このBOXでのふとした会話から「女装喫茶シンデレラ」は生まれた。

ストイックな日常を過ごす会員にとって、女装という刺激的な非日常を味わえる体験が適度な快感となり、長年続く企画になったのだろう。

アルバム

















